

群馬の畜産 みんなの情報室

第357号

発行日
令和5年7月31日

発行:公益社団法人 群馬県畜産協会
〒379-2147 前橋市亀里町1310 群馬県JAビル 3階/TEL:027-220-2371 FAX:027-220-2372
ホームページ:https://chikusankyokai.or.jp

会長就任挨拶



公益社団法人 群馬県畜産協会
会長 林 康夫

日頃から当協会の運営並びに業務の推進につきまして、特段のご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。去る6月29日に開催されました第80回定時総会、並びに第53回理事会で、会長に選任された林 康夫でございます。本県畜産業の健全な発展のため、会長として、諸課題に全力で取り組んで参る所存でございますので、宜しく願い申し上げます。

さて、群馬県の畜産は、令和3年農業産出額で見ますと1,158億円で、県農業産出額2,404億円の48%を占めています。個別農産物順位は、豚が468億円で第1位、生乳が218億円で第2位、鶏卵が201億円で第3位、肉牛が167億円で第5位など、本県農業の基幹部門として、県農業の牽引役となっています。

畜産を巡る情勢につきましては、ロシアによるウクライナ侵攻、為替変動、国際的な穀物需要の高まりなどの影響で、飼料価格は過去最高水準で高止まり、畜産経営はかつてない厳しい状況となっています。なかでも酪農におきましては、令和2年以降、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、生乳需要が大幅に減少し、生乳の需給バランスが崩れ、生産抑制を余儀なくされており、県内酪農家の離農率は、令和4年度で12%を上回り、生産基盤の弱体化が進んでおります。

また、昨年度は、本県で豚熱の発生が4例確認されたほか、鳥インフルエンザの発生も初めて3例が確認されており、引き続き飼養衛生管理の一層の強化と家畜防疫対策への支援が求められています。

こうした厳しい経営環境のなか、畜産業の経営安定と畜産物の安定供給に対する当協会の役割は、今後さらに重要になっていくものと思います。

本会といたしましては、今後とも、県内の畜産経営体が夢と希望を持ち、持続可能な畜産経営が営まれるよう、時代の変化や直面する課題に対し、迅速に対応して参る所存でありますので、生産者をはじめ、関係機関・団体の皆様には、今後とも特段のご支援・ご協力をお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。

目次

会長就任挨拶	1	令和5年度 前期乳牛体型調査・牛群審査の実施について	9
令和5年度の役員体制が変わりました	2	令和5年度高得点牛のご紹介	9
令和4年度の事業報告並びに貸借対照表、正味財産増減計算書が承認されました	2	セントラルジャパンの報告	10
令和5年度 東部支部長・審査員合同協議会及び審査研究会開催	6	事業統括の紹介	10
群馬県学校農業クラブ連盟主催 家畜審査講習会及び家畜審査競技大会の開催	7	価格安定事業の発動状況	11
群馬県畜産共進会、関東地区ホルスタイン共進会の案内	8	市況	11
山羊の巡回登録について	8	みんなで行こう!ケイバ!南関東4競馬場開催日程	12

令和5年度の役員体制が変わりました

今回の定時総会において辞任に伴う役員の改選が行われ、新たな役員が選出されました。また、定時総会後に開催されました第53回理事会において役付理事が決定しました。新たな役員体制は次の通りです。

1 役付理事

会長 林 康夫
副会長 天笠 淳家
副会長 福島 浩毅

2 理事 品川 文隆 中里 昌弘 小野 和則 矢内 功 大塚 隆夫 奥木 隆人
大澤 孝志 松下 洋一 河野 哲也 横室 達弥 都丸 高志 南 雄司

3 監事 櫻井 英俊 大久保 克美 桜井 正喜

4 退任理事 唐澤 透 砂長 伸司 石田 信郎 萩原 一夫 馬場 悟 梅村 透

5 退任監事 大塚 隆夫 井上 義夫

令和4年度の事業報告及び貸借対照表、正味財産増減計算書が承認されました



去る、令和5年6月29日に、全正会員の出席のもと、第80回定時総会が開催され、第52回理事会にて承認いただいた令和4年度事業実績について報告を行ったほか、令和4年度の貸借対照表及び正味財産増減計算書について承認をいただきました。

以下に、その概要をお知らせいたします。

1 令和4年度実施事業の実績について

(1) 概要

令和4年度においては、公益目的事業80事業、収益等事業14事業の合計94事業を実施しました。新型コロナウイルス感染症の長期化により、生乳の需給緩和、牛肉需要の低迷に伴う肉用子牛価格の下落のほか、国際的な穀物需要の高まり、ロシアによるウクライナ侵攻、為替変動などを背景に、配合飼料価格等は過去最高水準で高止まり、畜産経営はかつてない厳しい状況が続きました。

家畜衛生については、群馬県や関係機関等が連携して防疫対策の強化に取り組む中、豚熱の発生が4例確認されたほか、鳥インフルエンザも本県で初めて発生し、3例が確認されるなど、家畜伝染病への対策に追われた年となりました。

また、昨年10月、鹿児島県で開催された第12回全国和牛能力共進会では、本県出品牛が過去最高の成績を収め、和牛改良の成果を全国に発信することができました。

本会としましては、畜産専門機関としての役割を十分に発揮できるよう、職員一丸となり全力で業務に取り組み、概ね計画どおり事業を実施しました。

公益目的事業のうち、畜産経営の安定を図る事業（6事業）においては、前年度に比べ牛肉価格が下落したほか、配合飼料価格等高騰の影響により、生産コストが上昇し、「肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン）」では、8月以降は12月を除き全品種において補てん金の発動があり、5億3600万円余りの交付金を交付し、本県の肉用牛肥育経営のセーフティネットとしての役割を果たしました。

また、肉用子牛価格の下落に伴い、肉用子牛生産基盤の安定や経営改善を図るための緊急対策として実施された「優良肉用子牛生産推進緊急対策事業」、「和子牛生産者臨時経営支援事業」にも迅速に取り組み、肉用牛繁殖経営の支援を行いました。

畜産経営の向上を図る事業（27事業）は、地域の畜産経営への支援指導を行うため、経営実績に基づく改善情報の提供、各種調査や畜産特別資金の指導事業を継続的に行ったほか、畜産クラスター事業の機械導入事業の県窓口として、クラスター計画に基づく導入申請等へのサポートやアドバイス、優良な経営管理技術を有する経営体の経営成果等の調査を行いました。

また、畜産経営における人材確保と労働力の負担軽減を図るため、労働省力化を図る事業の実施、酪農ヘルパー組織の維持や要員確保、第三者経営継承に対する支援、傷病発生時等の酪農ヘルパー利用の相互扶助を図る互助会の運営等を行いました。

このほか、産業動物獣医師として県内に勤務を希望する獣医学生に対し修学資金を給付したほか、畜産女性経営者を対象とした経営改善や経営管理能力の向上を図る勉強会等も開催しました。

家畜及び畜産物の安全性確保と理解醸成に関する事業（24事業）では、生産農場における飼養衛生管理の向上や家畜の伝染性疾病の清浄化、疾病の発生予防に向けた自主淘汰支援やワクチン接種費用の負担軽減、家畜伝染病予防法に基づき殺処分された家畜の代替畜の導入費用の互助制度の普及啓発と事務手続き、防疫演習、牛伝染性リンパ腫・マイコプラズマ乳房炎等の対策、自衛防疫団体等が実施する予防注射に必要な衛生資材等についての支払事務等を実施しました。

また、豚熱（CSF）への対策として、野生イノシシ経口ワクチンの散布により、豚熱ウイルスの拡散防止を図る対策協議会の運営、養豚の生産性を阻害する豚繁殖・呼吸障害症候群（PRRS）の発生低減・排除を図るための指導獣医師と連携した検査と指導、種鶏場等の衛生管理向上を図るサルモネラ検査等を実施したほか、馬の飼養衛生管理向上のための研修会等の開催、馬インフルエンザワクチン・馬鼻肺炎ワクチン接種の推進、農場 HACCP、畜産 GAP の構築支援や認証を推進する事業などを実施しました。

このほか、畜産、地方競馬振興への消費者の理解を促進するために、牧場体験や畜産普及啓発等、イベントにおける広報活動などについて実施しました。

家畜の能力向上を促進する事業（23事業）では、家畜の改良成果を展示し優れた形質をもつ家畜を競い称える群馬県畜産共進会を全畜種において開催したほか、和牛については、遺伝子検査によるゲノミック評価を活用した早期の繁殖雌牛候補牛の能力把握を促進、県内の高等登録牛の増頭促進、中核的担い手の優良繁殖雌牛の増頭奨励金の交付、畜産クラスター計画に基づく増頭奨励金の交付、育種価評価を解析し産肉能力向上を図る事業など、改良・増殖を促進する事業を実施したほか、令和4年10月に鹿児島県にて開催されました「第12回全国和牛能力共進会」への出品に向けて、出品対策協議会等の開催・運営や、出品対策に係る指導、現地での出品支援を行いました。

また、肉用子牛の強化哺乳技術を活用した早期出荷を図る事業も迅速に着手し、家畜の能力向上を促進する事業を支援しました。

このほか、乳牛、肉豚、緬山羊、養蜂の各畜種における生産振興に係る各種事業を実施しました。

畜産に関する収益等事業（6事業）、畜産の振興を図る事業（8事業）では、和牛、乳牛（ホルスタイン種、ジャージー種）、種豚、山羊（日本ザーネン種）の各家畜の血統登録を積極的に推進し、血統登録を行ったほか、県内の生産者等の団体からの事務を受託し、地域の畜産振興に努めるとともに、公益目的事業を実施するための財源として収益性の確保に努めました。

今後も、事業を継続して行うとともに、畜産を取り巻く中長期的な課題や実態を十分に踏まえて、飼養衛生管理、家畜衛生等を強化する事業に積極的に取り組むほか、国際化に対する畜産経営の確立と畜産経営の安定向上、及び安全で良質な畜産物の生産に貢献し、国民生活に不可欠な食料生産の安定的な供給に寄与して参ります。

会計区分内訳表

() は補正時の事業数

会計区分		補助事業	助成事業	特別事業	受託事業	家畜登録	事務受託	自主事業	計
公益目的事業	公1(1) 経営安定支援	3 (2)			1 (1)		1 (1)	1 (1)	6 (5)
	公1(2) 経営向上支援	8 (8)		1 (1)	8 (8)			10 (10)	27 (27)
	公1(3) 安全・理解	5 (5)	6 (6)		4 (4)			9 (9)	24 (24)
	公1(4) 能力向上	8 (7)		7 (7)	2 (2)			6 (6)	23 (22)
	小計	24 (22)	6 (6)	8 (8)	15 (15)		1 (1)	26 (26)	80 (78)
収益等事業	収1(1) 家畜登録					6 (6)			6 (6)
	他1(1) 団体事務受託						8 (8)		8 (8)
	小計					6 (6)	8 (8)		14 (14)
合計		24 (22)	6 (6)	8 (8)	15 (15)	6 (6)	9 (9)	26 (26)	94 (92)

補助元等区分別内訳

() は補正時の事業数

補助元等	補助事業	助成事業	特別事業	受託事業	家畜登録	事務受託	自主事業	計
農林水産省	3 (3)							3 (3)
群馬県	9 (9)							9 (9)
農畜産業振興機構	9 (7)			2 (2)				11 (9)
地方競馬全国協会	1 (1)							1 (1)
家畜登録団体					6 (6)			6 (6)
中央畜産会	2 (2)	5 (5)		8 (8)				15 (15)
その他団体		1 (1)		4 (4)				5 (5)
事務受託先						8 (8)		8 (8)
その他			7 (7)	1 (1)			1 (1)	9 (9)
自己資金			1 (1)			1 (1)	25 (25)	27 (27)
合計	24 (22)	6 (6)	8 (8)	15 (15)	6 (6)	9 (9)	26 (26)	94 (92)

2 令和4年度の会計状況について

令和4年度においては、補助事業24事業、助成事業6事業、特別事業8事業、受託事業15事業、家畜登録事業6事業、団体・生産者からの事務受託事業9事業、自主事業26事業の合計94事業を実施し、経常収益862,180千円、経常費用856,514千円、経常外収支を含めた他会計振替前当期一般正味財産増減額は7,186千円の増加となりました。

これを前年度と比較しますと、経常収益は256,440千円の増加、経常費用は262,278千円の増加となりました。主な理由は、農畜産業振興機構が実施する肉用牛肥育経営安定交付金制度(牛マルキン)の発動に伴う受取機構交付金の増加(136,316千円の増加)また、経常費用の肉用牛肥育交付金の増加(250,155千円の増加)によるものです。

一方、受取助成金、受取受託金の収益は合計で8,148千円減少しており、いずれも事業の性質上、収益と費用が平行に増減するため、経常費用の事業費の一部の科目で費用も減少しました。

このほか、前年度は、令和4年7月に、肉用牛肥育経営安定交付金制度(牛マルキン)の第1業務対象年間(平成30年12月30日~令和4年3月)の終了に伴う生産者負担金の無事戻しを行った結果、経常外増減の部において、指定正味財産に繰入した経常外収益の受取生産者負担金振替額、及び経常外費用の支払生産者負担金返還金が同額となる362,414千円発生しました。

指定正味財産増減額については、前年度に比べ、36,606千円減少しました。主な理由は、肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン）の生産者負担金単価の見直しにより、受取生産者負担金が増加（444,030千円の増）した一方、発動に伴う交付金交付を含む一般正味財産への振替額も増加（480,191千円の増）したことによるものです。

公益法人は、収益事業から得られる財産の増加を公益目的事業の実施に充て、さらに公益目的事業を拡大していくことを求められており、収益事業等会計から、その収益の一部の振替を行い公益目的事業を実施することとなります。

令和4年度においても、定められた方法に従い、公益目的事業の安定的な実施を図りました。

正味財産増減計算書

公益社団法人 群馬県畜産協会

法人全体

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
特定資産運用益	[1,767,074]	[1,374,585]	[392,489]
受取会費	[15,265,000]	[15,265,000]	[0]
事業収益	[113,529,190]	[112,972,380]	[556,810]
受取補助金等	[500,708,620]	[356,464,392]	[144,244,228]
受取助成金	[26,765,199]	[31,648,313]	[△ 4,883,114]
受取受託金	[24,421,785]	[27,687,149]	[△ 3,265,364]
賦課金収益	[5,740,700]	[5,863,100]	[△ 122,400]
受取積立金	[3,155,000]	[3,320,000]	[△ 165,000]
受取生産者負担金	[134,029,654]	[20,191,571]	[113,838,083]
受取負担金	[32,845,144]	[28,148,070]	[4,697,074]
受取寄付金	[473,756]	[250,000]	[223,756]
雑収益	[3,479,371]	[2,555,801]	[923,570]
経常収益計	862,180,493	605,740,361	256,440,132
(2) 経常費用			
事業費	[851,085,663]	[587,575,315]	[263,510,348]
管理費	[5,428,973]	[6,660,353]	[△ 1,231,380]
経常費用計	856,514,636	594,235,668	262,278,968
当期経常増減額	5,665,857	11,504,693	△ 5,838,836
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
受取生産者負担金	[362,414,175]	[0]	[362,414,175]
固定資産売却益	[1,520,357]	[0]	[1,520,357]
受取返還金	[1,357,400]	[11,157,137]	[△ 9,799,737]
経常外収益計	365,291,932	11,157,137	354,134,795
(2) 経常外費用			
支払返戻金	[362,414,175]	[0]	[362,414,175]
支払返還金	[1,357,400]	[11,157,137]	[△ 9,799,737]
経常外費用計	363,771,575	11,157,137	352,614,438
当期経常外増減額	1,520,357	0	1,520,357
税引前当期一般正味財産増減額	7,186,214	11,504,693	△ 4,318,479
法人税、住民税及び事業税	2,916,800	3,354,500	△ 437,700
当期一般正味財産増減額	4,269,414	8,150,193	△ 3,880,779
一般正味財産期首残高	369,775,083	361,624,890	8,150,193
一般正味財産期末残高	374,044,497	369,775,083	4,269,414
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金等	[13,889,600]	[15,271,000]	[△ 1,381,400]
受取積立金	[6,944,800]	[7,635,500]	[△ 690,700]
受取生産者負担金	[625,542,000]	[181,512,000]	[444,030,000]
受取負担金	[1,520,000]	[520,000]	[1,000,000]
特定資産運用益	[1,598,421]	[971,146]	[627,275]
一般正味財産への振替額	[△ 506,765,161]	[△ 26,573,352]	[△ 480,191,809]
一般正味財産への振替額	△ 506,765,161	△ 26,573,352	△ 480,191,809
当期指定正味財産増減額	142,729,660	179,336,294	△ 36,606,634
指定正味財産期首残高	1,411,284,469	1,231,948,175	179,336,294
指定正味財産期末残高	1,554,014,129	1,411,284,469	142,729,660
III 正味財産期末残高	1,928,058,626	1,781,059,552	146,999,074

令和5年度東部支部長・審査員合同協議会及び審査研究会開催

令和5年5月18日に全国和牛登録協会主催の東部支部長・審査員合同協議会、翌19日に審査研究会が開催されました。群馬県では12年ぶりの開催となり、北海道から関東までの東部ブロック管内の和牛審査委員などの関係者が115名参加しました。

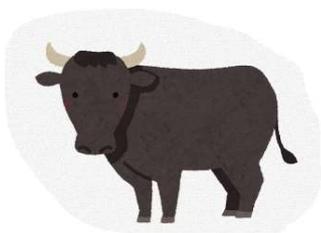
協議会では、令和5年度事業計画、第12回全共の成果と課題、第13回全共の基本構想を協議しました。審査研究会では5頭の供試牛を審査しました。3頭を個人で採点し提出、2頭を各県で回答をまとめて提出しました。最後に中央審査員より模範審査と講評をいただき、牛の見方と目合わせの勉強となる有意義な研究会となりました。来年は秋田県にて開催予定です。



挨拶をする全国和牛登録協会の向井会長（支部長・登録主任者合同会議 ㊤、支部長・審査員合同協議会 ㊦）



審査研究会風景
(5月19日)



群馬県学校農業クラブ連盟主催 家畜審査講習会及び家畜審査競技大会開催

令和5年5月16日、群馬県畜産試験場及び群馬県馬事公苑にて、群馬県学校農業クラブ連盟主催により、家畜審査講習会が開催されました。県内7高校の生徒が、乳牛の部と和牛の部に分かれて参加しました。それぞれの畜種の審査標準を定めている全国和牛登録協会の中山氏及び日本ホルスタイン登録協会の栢沢氏を審査員として招き、畜産試験場職員、本会職員も審査員として対応いたしました。

午前中は講習会として、乳牛の部ではホルスタイン牛の見方と線形評価法に基づき、和牛の部では黒毛和種審査標準に基づき、講師ご自身の審査経験を含めた理解しやすい講演がされました。その後、畜産試験場の飼養牛を供試牛として審査実習がおこなわれました。



栢沢氏による講演



審査実習風景

家畜審査講習会から約1か月後、令和5年6月13日、家畜審査競技大会が開催されました。乳牛の部42名、和牛の部67名の計109名が参加しました。

設問は成牛4頭と育成牛4頭の総合序列、成牛の審査項目3カ所の序列付けの5問。生徒が学んだ事を実践する形で解答を作成、その後審査員による模範審査を実施し、判断の仕方について確認する場が設けられました。

模範解答に対する正答率に基づき採点がされ、最終的に各部最優秀賞1名、優秀賞12名が表彰されました。最優秀賞は、乳牛の部では利根実業高校3年生の野上夢奈さん、和牛の部では勢多農林高校1年生の石田虹名さんがそれぞれ受賞しました。この2名の方は、10月に熊本県で開催される全国大会へ出場することになりますが、全国大会でも優秀な成績が納められることを期待しております。



家畜審査協議大会

群馬県畜産共進会、関東地区ホルスタイン共進会の案内

■第27回 群馬県畜産共進会について

家畜の改良増殖を図り、畜産振興に寄与することを目的に第27回群馬県畜産共進会を下記のとおり予定しています。

乳牛の部は第20回関東地区ホルスタイン共進会が開催されるため、本共進会が予選会となります。

詳細は本会HPをご覧ください → <https://chikusankyokai.or.jp/>

畜種	日時	場所
山羊の部	令和5年 8月25日(金)	全国農業協同組合連合会群馬県本部渋川家畜市場
繁殖和牛の部	令和5年10月16日(月)	群馬県畜産試験場内
乳牛の部	令和5年10月20日(金)	群馬県畜産試験場内

■第20回関東地区ホルスタイン共進会について

日時：令和5年11月15日(水)・16日(木)

場所：千葉家畜市場(千葉県千葉市若葉区若松町)

本大会は隔年開催が原則なのですが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、平成30年(群馬開催)以来の開催となります。

前回大会では、未経産・経産で最高位賞、名誉賞3点の入賞をはじめ、数多くの出品牛が入賞しましたので、今大会も上位入賞が大いに期待できます。



第19回大会 最高位受賞者

ヤギの巡回登録について

6月中旬から7月初旬にかけて、今年県内で生まれた山羊の登録巡回を実施しました。

本会が登録を行う日本ザーネン種は、秋から冬にかけて繁殖する「季節繁殖」を示し、約151日の妊娠期間を経て、春から初夏にかけて分娩をします。産子登録(登録山羊の間に生産された山羊の登録)は、離乳をする前(生後2~3か月位)に行うことが日本山羊登録規定で定められているため、それにあわせて、例年この時期に登録巡回を実施しています。

巡回では、登録を行う山羊の血統や特徴を確認し、標準を満たすものに、登録団体指定の耳標を装着します。

登録情報は、改良はもちろん、近親交配や、角の生えない無角の山羊同士の交配によって生じる、生殖能力のない「間性」といった遺伝的不良形質の未然防止にも活用できます。

今年度の巡回では、14件の飼養者を訪問し、65頭(♀35頭、♂30頭)の産子登録を行いました。

登録山羊が一同に会する群馬県畜産共進会(山羊の部)が8月25日(金)に開催されます。当共進会に出品する山羊においては、CAE(山羊関節炎・脳炎)の蔓延防止を図るため、血液検査の受検を推奨しており、採血のために県家畜保健衛生所の職員にも同行をしていただきました。



昨年度、畜産技術協会長賞を受賞した 孺恋村・宮崎氏と山羊



渋川市で日本ザーネン種を50年以上飼養している長岡氏の山羊

★巡回以外でも、常時登録は受け付けておりますので、登録のご希望がございましたら、本会までお気軽にご連絡ください★

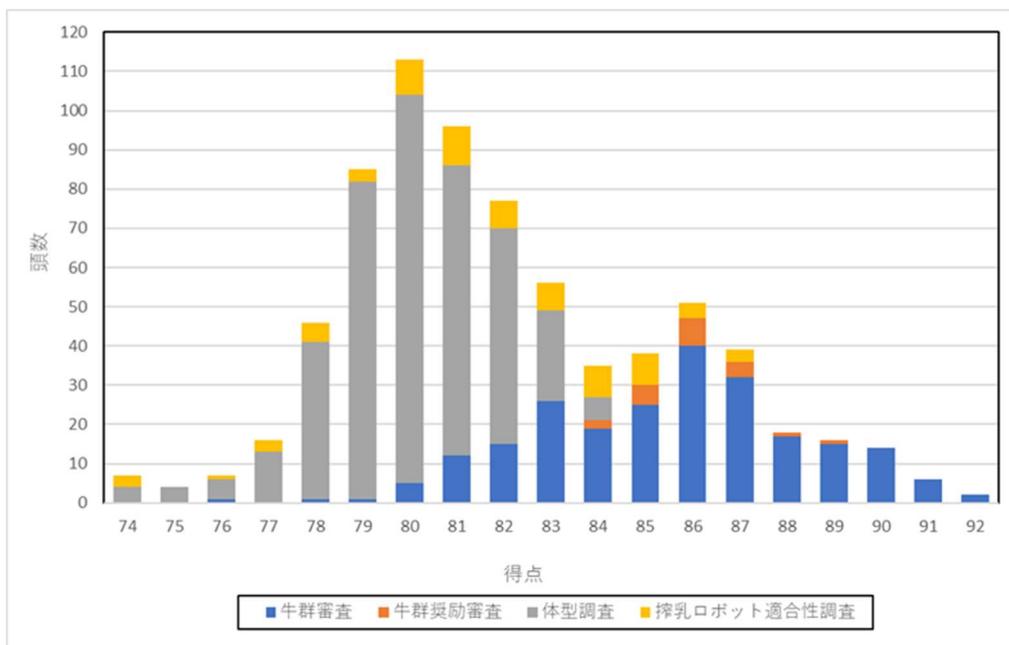
令和5年度前期乳牛体型調査・牛群審査の実施について

5月30日（火）～6月20日（火）の15日間にわたり、（一社）日本ホルスタイン登録協会審査員高橋貞光氏によって、令和5年度前期体型調査・牛群審査が行われました。

今回は、牛群審査231頭、奨励審査20頭、体型調査404頭、搾乳ロボット適合性調査71頭、計58戸のご協力により、726頭の審査・調査を実施しました。審査及び調査した中で、85点以上のベリーグッド牛が162頭、90点以上のエクセレント牛が22頭でした。

詳細は以下のとおりです。

	74 以下	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92 以上	計 (合計)
牛群審査	0	0	1	0	1	1	5	12	15	26	19	25	40	32	17	15	14	6	2	231 (85.5)
牛群奨励審査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	7	4	1	1	0	0	0	20 (86.0)
体型調査	4	4	5	13	40	81	99	74	55	23	6	0	0	0	0	0	0	0	0	404 (80.0)
搾乳ロボット 適合性調査	3	0	1	3	5	3	9	10	7	7	8	8	4	3	0	0	0	0	0	71 (81.7)
計	7	4	7	16	46	85	113	96	77	56	35	38	51	39	18	16	14	6	2	726 (82.1)



令和5年度高得点牛のご紹介

令和5年度前期乳牛体型調査・牛群審査において、新規に93点を獲得した（株）阿部牧場の牛を紹介いたします。



骨格構造および各部の移行が良く、輪郭鮮明で、乳器については前乳房が長く強く付着しており、後乳房は高く付着して幅のある素晴らしい乳器をもつ牛でした。

名 号：A.F.H ダ イモト バック D パイ
 個体識別番号：1509071669
 生年月日：H29.08.15
 産 次：4産
 所 有 者：（株）阿部牧場

セントラルジャパンの報告

令和5年4月14日（金）～15日（土）に第10回全日本ブラックアンドホワイトショウ並びに2023セントラルジャパンホルスタインショウが静岡県御殿場市馬術スポーツセンターにて開催されました。本県出品牛は下表のとおり好成績を収めました。

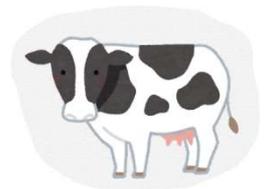
特に第4部の齊藤将聡氏が出品した「ジヤグロブリッジ チーフマン サラ」はジュニアチャンピオンを受賞。第12部の(有)萩原牧場が出品した「ブルーエンゼル アフターシヨック ジョリーン」はベストライフタイムプロダクション（最高生涯乳量）を受賞しており、体形・生乳生産量のどちらにおいても日頃の改良の成果が発揮されました。

本県出品牛における各部3位までの入賞牛一覧

出品部	順位	出品者	名号
第1部	2位	三輪 圭吾	リスペクト ラティーズ ラッシュ
第4部	1位	齊藤 将聡	ジヤグロブリッジ チーフマン サラ
			ジュニアチャンピオン
第6部	1位	(株)長坂牧場	ラブリーファーム エスマン アイリス
第6部	2位	三輪 圭吾	リスペクト ラティーズ ハンコック
第10部	2位	(株)長坂牧場	ラブリーファーム ゴールドチップ デイライト
第10部	3位	(株)長壁牧場	スパシーバ LW ブライト ミツク マカロン
第12部	1位	(有)萩原牧場	ブルーエンゼル アフターシヨック ジョリーン
			ベストライフタイムプロダクション



ジュニアチャンピオン（齊藤氏）



ジュニアチャンピオン集合写真

事業統括の紹介

事業統括（管理）の羽鳥正子です。畜産協会の運営・総務・会計等広い業務に携わり、この4か月間は、決算作業、総会運営、役員改選業務などに従事し、会員並びに関係者の皆様にご協力いただきながら、日々重責を痛感することの連続でありました。

コロナ禍前の業務に戻つつある中、職員が業務を遂行、目標達成できるように微力ながらサポートしていきたいと思っております。引き続きよろしく願いいたします。

事業統括（肉用牛）の中村俊治です。新型コロナが5類の扱いとなり、各行事もコロナ前と同様に企画・開催準備を進められるようになりました。具体的には、毎年の県共進会開催による改良成果の確認とともに、4年後の北海道全共に向けた出品対策を関係団体一丸となって進めていきます。また、農場 HACCP の構築支援、クラスター機械導入の支援、畜産特別支援資金の借入希望者に対する計画作成支援及び達成指導についても継続的に取り組んでいきたいと考えております。今後とも、よろしくお願い申し上げます。

事業統括（酪農中小家畜）の保坂扶砂与です。酪農中小家畜では、乳牛、豚、山羊の登録および生産振興、酪農ヘルパーの支援、畜産人材の確保育成、家畜衛生対策に関する事業等を実施しています。会議や研修会もようやく制限なく開催できるようになり、今年度の県畜産共進会もコロナ禍前の通常開催を予定しています。また今年度は関東地区ホルスタイン共進会が5年ぶりに開催されます。先日実施された乳牛体型調査・牛群審査では高得点の牛が多数出ているので、上位入賞が期待されます。畜産情勢は厳しい状況が続いていますが、このような時こそ、職員一人一人が何をすべきか考えて実践し、支援体制の強化を図ってまいります。今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

価格安定事業の発動状況

◆肉用子牛生産者補給金制度 補給金交付状況

区分			平均売買価格(円)					交付単価(円)					交付額(円)					
業対	年次	月次	期別	黒毛	褐毛	他肉	乳用	交雑	黒毛	褐毛	他肉	乳用	交雑	黒毛	褐毛	他肉	乳用	交雑
				7	5	1 ~ 3	第4四半期	613,600	523,500	252,300	148,100	308,200	0	0	67,630	15,900	0	0
		4 ~ 6	第1四半期															
		7 ~ 9	第2四半期															
		10 ~ 12	第3四半期															
計				※他肉（その他肉専用種）はR2年度より算定期間が1年（4月～3月）となりました。														

◆肉用牛肥育経営安定交付金制度（牛マルキン） 交付金交付状況

期間	品種区分	納付区分	支払区分	交付対象		交付金の額		積立金から 支払われる額(1/4)	交付日
				人数	頭数	(円)	交付金として		
				(人)	(頭)	(4/4)	支払う額(3/4)		
4月期	肉専用種	通常	概算払	/	1,041	25,912,954	19,434,689	6,478,265	概算払日 令和5年 6月28日
		猶予		/	0	0	0		
		計		82	1,041	25,912,954	19,434,689	6,478,265	
	交雑種	通常	概算払	/	0	0	0	0	
		猶予		/	0	0	0		
		計		/	0	0	0		
	乳用種	通常	概算払	/	20	789,391	592,039	197,352	
		猶予		/	0	0	0		
		計		7	20	789,391	592,039	197,352	
	小計	通常	概算払	/	1,061	26,702,345	20,026,728	6,675,617	
		猶予		/	0	0	0		
		計		89	1,061	26,702,345	20,026,728	6,675,617	

◆肉豚経営安定交付金制度（豚マルキン） 交付金単価について

算出期間	令和5年4月から6月まで
肉豚1頭当たりの標準的販売価格	44,557 円/頭
肉豚1頭当たりの標準的生産費	42,840 円/頭
肉豚1頭当たりの交付金単価	—

市況

和牛子牛市場成績【JA全農ぐんま渋川家畜市場】

開催月	性別	取引頭数	高値(円)	安値(円)	平均価格(円)	平均体重(kg)	平均日齢(日)	Kg単価(円)
6	雌	112	793,100	133,100	434,421	296	290	1,464
	雄							
	去勢	158	1,002,100	328,900	632,054	333	288	1,893
	合計	270	1,002,100	133,100	550,073	318	289	1,727

開催月	性別	取引頭数	高値(円)	安値(円)	平均価格(円)	平均体重(kg)	平均日齢(日)	Kg単価(円)
7	雌	119	6,343,700	281,600	622,535	297	290	2,096
	雄	1	661,100	661,100	661,100	201	129	3,289
	去勢	148	931,700	286,000	682,059	332	284	2,053
	合計	268	6,343,700	281,600	655,513	316	287	2,071

乳用牛市場成績

開催月	畜種区分	授精区分	腹子品種	頭数(頭)	平均体重(kg)	平均価格(円)
5	未経産	AI	ホルズ	32	332	204,531
			交雑種	7	553	427,000
			和牛	54	558	442,667
			IVF	45	544	617,178
	初妊	IVF	IVF	1	412	508,000
				10	631	261,400
			AI	3	577	263,333
			交雑種	24	666	371,500
			和牛	3	606	479,333
			IVF	2	775	378,500
合計			181	535	421,182	

前橋家畜市場取引結果【群馬県家畜商業協同組合】

開催日 令和5年6月1日～6月30日

品種	区分	性別	売買頭数	最高値(円)	最低値(円)	平均(円)	平均体重(kg)
和牛	子牛	メス	197	657,800	143,000	362,056	151
		オス	312	943,800	74,800	467,514	164
交雑種	子牛	メス	33	346,500	5,830	218,110	252
		オス	21	313,500	7,370	192,065	163
	スモール	メス	404	410,300	5,720	190,173	85
		オス	541	381,700	1,540	235,630	91
乳牛	子牛	メス	9	160,600	30,800	91,056	170
		オス	1	48,400	48,400	48,400	124
	スモール	メス	16	192,500	14,300	74,113	62
		オス	161	209,000	2,530	102,619	76



みんなで行こう！ケイバ！南関東4競馬場開催日程

地方競馬の売り上げの一部は、畜産振興及び地方財政の改善に活用されています。
詳しくは南関東4競馬場サイト：<http://www.nankankeiba.com/index.html>をご覧ください

◆BAOO高崎

群馬県高崎市岩押町 12-16
お問合せ：027-322-5192



ロイヤル席
個別モニター付き特別
観覧席で快適な一日を
お過ごしいただけます

◆オフト伊勢崎

群馬県伊勢崎市宮子町 3074
伊勢崎オートレース場
グリーンスタンド4階
お問合せ：0270-23-0535



平日、大井、川崎、
船橋、浦和の馬券が
購入できます



【開催日程】

▼ ナイター		▼ 薄暮開催																												
2023年 8月																														
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木
大井	大井	大井	大井	船橋	船橋	船橋	船橋	船橋	浦和	浦和		大井	浦和	浦和	大井	大井	大井			川崎	川崎	川崎	川崎	川崎			浦和	浦和	浦和	
	S III							S III							S I															S III
													大井	大井																
2023年 9月																														
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
浦和			大井	大井	大井	大井	大井			川崎	川崎	川崎	川崎	川崎		大井	大井	浦和	浦和	浦和	浦和			船橋	船橋	船橋	船橋	船橋		
					S I	S III						S III	S I						Jpn III							Jpn II				
																	大井			大井	大井									
2023年 10月																														
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火
	大井	大井	大井	大井	大井			川崎	川崎	川崎	川崎	川崎			浦和	浦和	浦和	浦和	浦和			船橋	船橋	船橋	船橋	船橋		大井	大井	大井
			Jpn II	Jpn II						S II						S III								S III					S I	

編集後記 群馬の畜産 みんなの情報室を読んでいただきありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の位置づけが「5類感染症」になってから、徐々に日常に戻ってきた感触があります。非日常を経験したからこそ、それまでの日常のありがたさが身に染み、非日常は多方面で今迄とは異なる方法の発見でもあり、マイナスなイメージだけではないと思っています。すでに梅雨が明け、人も、動物たちも爆発的な暑さに耐えしのぐ毎日が続いています。気力や体力が失われそうになりますが、健康第一優先にしてどうにか乗り切っていきたいと思います。皆様どうぞご自愛ください。(K.W)